

応募者名	株式会社福井RIDEコーポレーション	分野	観光、文化、娯楽
取組名称	福井エリアにおける地域課題解決のための「新感覚XRバス」導入	取組地域	福井県 福井市、勝山市、あわら市、坂井市

概要	
取組内容	北陸新幹線が開通した福井県エリアの地域課題として、観光目的地が点在し地点間を結ぶ公共交通機関が脆弱であること、またコンテンツ内容が恐竜、歴史文化など文字で伝えるにくいものであることがハードルとなり、目的地への移動手段が自家用車やレンタカーに偏り、オーバーツーリズムが顕在化している。そこで、液晶画面を車内に張り巡らせ、AR、VRのデジタル技術を活用してHMDなしで仮想空間への没入感を得られる仕様とした上、デジタルチケットにより切符を購入して乗車できる「新感覚XRバス」を、駅と観光地を結ぶ路線バスとして開発・導入し、国内外からの観光客に向けた公共交通利用促進と旅の満足度の増幅に貢献する取り組みである。
実績や効果	【取り組み前】福井駅⇒恐竜博物館への直行バス（原則毎日運行のもの）は存在しない 【取り組み実績】2024.6～2024.10（5ヵ月間）バスご利用実績（往復）：約1万人 ※お客様アンケートも実施しており、8割以上のお客様が「推奨意向」を示している。 ※顧客属性分析では、約6割が関東甲信越、約2割が関西発旅客。
取組全体を通じて訴えたいポイント	技術開発を目的にXR技術を応用したバス自体を開発した事例はあるが、具体的な走行エリアを自治体や地域の方と調整し、路線バスとしての実用運行に至ったのはこれが唯一。民間事業として経営的なハードルが高い中、お客様アンケートでも8割以上の推奨意向をいただいており、事業の持続に向け、ぜひ応援をいただきたく思う。

詳細	
地域の課題解決・魅力向上	駅から観光目的地までの移動時間について、AR、XR技術の応用、またAI技術の活用により、HMDなしでのバス車中での顧客体験を充実させ、観光における旅の満足度を飛躍的に向上させることができた。またデジタル技術を路線バスに应用することで公共交通機関による交流人口の拡大とオーバーツーリズムの防止に貢献した。
独自性・先進性	デジタル技術を用いたXRバスの路線バスへの応用、開発事例としては、国内初かつ唯一である。また、バスから見える観光エリアの車窓風景に重ねたAR技術と、仮想現実としてのVR技術を組み合わせることで、目的地への移動の道中において訪問に至るまでのワクワク感を増幅の上、デジタルチケットでの乗車を基本とした。
持続性・発展性	バスの開発、運営に向け、JR西日本と福井県との間で連携協定を締結し、同社が旗振り役となって地域や企業との協働により会社を設立、運営しており、北陸新幹線を通じた観光誘客活動と結びつくことによって、大都市や海外に向けた情報発信活動を継続、発展させ、持続的な交流人口の拡大に貢献するモデルを築いている。
他地域への横展開	今回福井県エリアにおいて初仕様となったXRバスをもとにした、車内設備およびコンテンツの開発、また事業スキームの応用は、地域事情に応じて他エリアでも展開可能である。2024年7月に福井県で開催された全国知事会において全国の各県知事にご利用いただいたほか、企業や団体による視察試乗実績も複数ある。
取組を進めるうえで苦労した点	バス車内で上映するXRコンテンツの製作にあたり、エンタメ性の担保を前提に、関係自治体や博物館等観光施設職員と打合せを重ね、顧客体験をどう増幅させるかに向けて相当の労力を割いた点。またバス導入・運営スキーム構築にあたり、省庁・自治体の他、旅行会社や地元企業、金融機関等と協議を重ねて契約書をまとめあげた点。
取組の成果を上げることが出来た秘訣・工夫	①民間主導での事業推進スキームの構築にあたり、各企業に分散するノウハウをコンソーシアムにより集約したこと。 ②自治体や観光施設職員の「自分ゴト化」を進めるため、連携協定締結などの具体的な推進の仕組みづくりや観光庁の補助制度の活用を、関係者間の協業・協働の契機として活用した点。 ③JRの宣伝販売力の活用。
今後の展望	バス運行の継続に向けては、安定的な財務スキームの維持が大前提となる。より多くのお客様にご利用いただけるよう、国内外に向けた宣伝周知とマーケティングを強化することにより、事業継続性を担保し、観光地における公共交通利用促進の好事例として採られ、全国各地の課題解決手段として活用されていくことを期待する。